

守備練習で軽快な動きを見せる八学光星のメンバー
＝9日、兵庫県伊丹市



打倒名電 練習再開

光星ナイン、次戦へ闘志

全国高校野球選手権大会で1回戦を突破した青森県代表の八学光星は9日、愛工大名電（愛知）との2回戦（12日）に向けて練習を再開。兵庫県伊丹市のグラウンドで約2時間、守備や打撃練習に汗を流した。

守備練習では内野陣が仲井宗基監督からフックを受け、軽快な動きでボールをさばいた。

打撃練習では、メンバーが名電の主戦有馬伽久や岩瀬法樹らを想定した打撃投手を相手に打ち込んだ。

初戦で2安打と気を吐いた池上智史は有馬について「チェンジアップやスライダーを交えながら直球で押してくる器用な投手」と印象を語った。その上で「光星は直球が得意な打者が多いが、自分は

カウントを取りに来る変化球を仕留めたい」と意気込んだ。初戦で3番手としてマウンドに上がった富井翼は「登板機会があればコーナーを突く自分の投球で

初球から全力で飛ばしていく」と闘志を燃やした。光星ナインは10日、大阪府豊中市内で調整する。

（福田駿）

⑭奥名 恒貴（内野手、3年）
＝大阪・南池田中出＝



八学光星 甲子園 たより

1回戦は代打で出場し、ヒットを打つことができませんでした。前の回に1点取られていたので何としても流れを引き寄せたいと思い、自信を持って打席に入りました。

自信持って打席に

た。三塁コーチアで相手投手の球を間近で見たいことや、試合前のデータ班からの情報のおかげで打つことができたと思います。青森大会では打撃が良くありませんでした。ただ、大会後に自分の打席の動画を見返してフォームを修正したり、バットを振り込んだりしたことで、今は調子が上がっています。